

ロックミュージックにおけるアーティストの影響構造および影響力

柴田 裕基

本研究の目的は、アーティスト間の影響関係に基づき、ロックミュージックにおいて影響力のあるアーティストを明らかにすることである。アーティスト間の影響関係は、ロックミュージックの発展の重要な原動力であると考えられる。音楽に関するデータベースサイト“allmusic”から、“Pop/Rock”に属するアーティスト間の影響関係を網羅的に収集し、ロックミュージックの影響関係ネットワークを構築した。このネットワークは、アーティストの影響構造を俯瞰的に捉えたものである。これを対象に、回数中心性や媒介中心性、そして独自に考案したスタイルの継承に着目した定量的指標の3つの観点から影響力の大きなアーティスト群を抽出した。同様の影響力の大きなアーティストのリストは、2004年にローリング・ストーン誌から“100 Greatest Artists of All Time”が発表されている。このローリング・ストーン誌のランキングでは“The Beatles”が1位であるが、このランキングは編集者や音楽専門家の話し合いによって決められ、明確な判断基準は存在しない。一方、個々のアーティスト間の影響関係を収集・結合し、ロックミュージックの全体像を捉え、明確な基準を以てアーティストの影響力を定量的に測ったのが本研究である。影響力の尺度の一つである回数中心性は、影響を与えているアーティストの数が多いアーティストほど影響力が高く評価される。さらに、アーティスト間の影響関係に間接的な影響を含めることで、影響力の高いアーティストに影響を与えているアーティストの影響力もそれに応じて高く評価できた。第二の尺度である媒介中心性では、時代を逆行する不自然な影響関係が例外的にアーティスト間に存在することから、求めるべきアーティスト群を抽出できなかった。本研究では既存の中心性以外に、アーティストの音楽性に着目するスタイル継承中心性を考案した。スタイルとは“allmusic”の分類において音楽性を表す最下位分類項目であり、各アーティストに複数付与されている。影響を与える側と与えた側のスタイルの適合率が高い程、アーティスト間でスタイルの継承が起きたと判断し、この適合率を、影響を与えたアーティストの影響力とした。これは二者間の影響力の高さが、スタイルの類似度に比例することを意味する。影響関係にあるアーティスト間のスタイル適合率を算出し、その合計値を各アーティストの影響力とした。さらに、間接的な影響関係を含めることで、二者間だけではなく、スタイルの継承が三代目までの三者間に及んでいる場合も考慮することで、スタイル継承におけるアーティストの影響力をより精確に評価できた。

本研究では、4つの観点から影響力のあるアーティスト群を抽出し、ローリング・ストーンのランキングに出現しない、ロックミュージックにおける重要な77のアーティストを明らかにした。本研究で考案したスタイル継承中心性は、ロックミュージック以外のジャンルにも応用でき、また画家や作家などの他の分野においても応用できるだろう。

(指導教員 真栄城哲也)